

第2部 「農海林ロード6」②

津山もくもくランド②

鳥取県隊の前線基地に



宿泊用に仮習館
もくもくランド周辺には雪
が残り、寒さが続いている。

総合隊長は東部消防局警防
課長(当時)の小林光徳さん
(60)が務めた。10日間の派遣
だが、移動日を除き実質6日
間で短期集中の闘いを求めら
れた。

総合隊長は東部消防局警防
課長(当時)の小林光徳さん
(60)が務めた。10日間の派遣
だが、移動日を除き実質6日
間で短期集中の闘いを求めら
れた。

前線基地となつたのが、登
米市津山町の道の駅「津山も
くもくランド」だつた。南三
陸町に近く、広い駐車場が確
保できるためだ。

1次隊、2次隊を合わせて
延べ123人、車両32台。2
011年3月12日朝に鳥取市
を出発した1次隊は13日深
夜、もくもくランドに到着し
た。走行距離は約1300キロ。
南三陸町での活動と基地は、
宮城県応援活動調整本部から
指定された。

緊急消防援助隊鳥取県隊の
隊員は南三陸町で目の当たり
にした惨状に、思わず息をの
んだ。

部隊は東日本大震災が発生
した日に、鳥取県東部消防
局が特別編成した。津波で
大きな被害を受けた同町で、
がれきを撤去しながら行方
不明者の捜索活動を懸命に続
けた。

前線基地となつたのが、登
米市津山町の道の駅「津山も
くもくランド」だつた。南三
陸町に近く、広い駐車場が確
保できるためだ。

1次隊、2次隊を合わせて
延べ123人、車両32台。2
011年3月12日朝に鳥取市
を出発した1次隊は13日深
夜、もくもくランドに到着し
た。走行距離は約1300キロ。
南三陸町での活動と基地は、
宮城県応援活動調整本部から
指定された。

支援紡ぐ道の駅

震災から再興へ

<< 23 >>

泊用に提供された。小林さんたり他の避難所に運んだりし
は「隊員の3分の2が利用して喜ばれた。
た。活動しやすくなつた」と
配慮に感謝する。

もくもくランドは、施設内

に避難した人たちへの炊き出

ぱされ、敷地内の仮習館が宿

だけなく、炊き出しに使つ

てできることは、これしかな

れた側。双方の心遣いがつな

がりを深めた。
もくもくランドには陸上
かつたので」と小林さん。活
動場所は主に南三陸町
の戸倉から神割崎方面。「こ
こは日本なのか。生存者が
いるとは到底思えない」。

活動場所は主に南三陸町
の戸倉から神割崎方面。「こ
こは日本なのか。生存者が
いるとは到底思えない」。
こうした課題に対し「情報
救助活動の経験が豊富な小
林さんでさえ、動揺を隠せ
ない悲惨な光景が広がつて
いた。

消防と自衛隊の垣根を越え、
の情報や宮城県対策本部から
の連絡がないため、不安な中
で行動を強いた。消防

法でタンクローリーから車に
直接給油できない問題も浮き
彫りになつた。

活動場所は主に南三陸町
の戸倉から神割崎方面。「こ
こは日本なのか。生存者が
いるとは到底思えない」。
こうした課題に対し「情報
救助活動の経験が豊富な小
林さんでさえ、動揺を隠せ
ない悲惨な光景が広がつて
いた。

消防と自衛隊の垣根を越え、
の情報や宮城県対策本部から
の連絡がないため、不安な中
で行動を強いた。消防

法でタンクローリーから車に
直接給油できない問題も浮き
彫りになつた。

住民らが案内役

見知らぬ土地で、住民と郵
便局員2人が現地の案内役を
買って出てくれた。水を差し
入れたり、発生直後からの状
況を教えてくれたりする人も
いた。

「心強かった。『遠くから
来てくれてありがとう』と言
われたときは胸が締め付けら
れた」と、住民が表した感謝
の気持ちを語る。

被災直後の現場を知る元指
揮官は「震災が風化してし
まうのが怖い。援助隊の体
験を生かし、研修会などの場
で伝えていきたい」と新

たな使命を胸に秘めてい
た。

前線基地のもくもくラン
ドで活動について打ち合
わせる緊急消防援助隊鳥
取県隊

鳥取県東部消防局 正式名称は鳥取県
東部広域行政管理組合消防局。鳥取市と
岩美、若桜、智頭、八頭4町で組織する
一部事務組合。5消防署、6出張所、1
分遣所で構成。組合は休日歯科診療所、
グラウンドゴルフ場の管理運営など8事
業を担う。

(地域ジャーナリスト・鈴木
孝也)

致ごメ使季
用二つ節

皆幸

洗濯! 乾燥! 洗濯から乾燥までノンストップ洗浄!